



廿日市市教委だより

令和4年
2月18日
第11号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

暦の上ではもう春ですが、まだまだ寒い日が続いています。
年度末を迎え、忙しい毎日だと思いますが、子ども達が良い締めくくりができ、次年度に向けて良いスタートが切れるようにしていきましょう。

今回は、『今後の取組をよりよくするためのアンケート』の結果（部活動編）」と「令和3年度文部科学大臣優秀教職員表彰・令和3年度広島県教育奨励賞受賞者」について紹介します。



持続可能な部活動の実現に向けて！

～「今後の取組をよりよくするためのアンケート」の結果より～



市教育委員会では、今後の施策検討に向けて必要な改善や見直しを図るため、市内小・中学校の先生方を対象に「今後の取組をよりよくするためのアンケート」を実施しました。部活動に関する設問と結果は次の通りです。

部活動は、異年齢との交流の中で好ましい人間関係を築くことや、多様な学びの場として教育的な意義が高い活動です。一方で時間外勤務の要因の1つにもなっています。そこで、朝練習について、どのように考えていますか。（※中学校のみ回答）	① 実施すべきではない	36.6%
	② 実施すべきである	10.4%
	③ どちらともいえない	53.0%

①については、「顧問の時間外勤務の増加、心身の負担の増加、生徒の朝食の欠食、集中力の低下、疲労の蓄積」等の理由があり、②については、「顧問の生徒と向き合う時間の確保、生徒の体力・技術力の向上、心身の健康増進、所属感・居場所作り」等の理由がありました。また、③については、「大会前のみ実施、実施の有無は顧問判断、市で一律廃止、部活動以外の業務の削減」等の様々な意見がありました。

今回のアンケートで、先生方から多くの意見や提案をいただいています。先生方の負担軽減と生徒にとって望ましい部活動の実現に向けて、これらの意見を参考に、今年度中に学校関係者と協議を進め、今後の朝練習の在り方について方向性を示していきます。

令和3年度文部科学大臣優秀教職員表彰 令和3年度広島県教育奨励賞

廿日市市の2名の先生が、素晴らしい賞を受賞されました。

お二人の受賞を祝福するとともに、その研究実践から学び、生き生きと学ぶ子ども達を育成できるよう取り組んでいきましょう。

令和3年度文部科学大臣優秀教職員表彰

佐方小学校 シュトロウ絢子教諭

外国語教育の指導方法、カリキュラム、評価及び評価方法の研究と普及に取り組み、成果を収めるとともに、小学校と中学校の外国語教育の連携にも大きく貢献しました。



【シュトロウ先生より】

外国語パワーアップ教員としての1年目は何も分からず、様々な研修の機会をいただいで勉強してきました。周りの先生方が一生懸命吸収しようとしてくださり、一緒にがんばってこれたので、皆でいただいた賞だと思っています。

外国語は楽しいものです。苦手な方もいると思いますが、殻を破って楽しむことが大切です！コロナ禍で直接外国の方と交流することは難しいと思いますが、リモート等を使ってつながっていきたいです。

令和3年度広島県教育奨励賞

廿日市小学校 伊藤尚子教諭

幼児教育長期派遣研修で学んだことを生かしてスタートカリキュラムを実践し、幼保小連携・接続の観点等を様々な研修会で広く普及するなど、県内の幼保小連携教育の推進に貢献しました。



【伊藤先生より】

1年間幼稚園で研修をしたことで、学級づくり、学びづくりが変わりました。子どもを動かすのではなく、子どもが動かくなるように仕組むという意識をもつようになりました。ただ遊びの場をつくれればいいのではなく、多様な子どもがいる中でどのように安心の場をつくるかを考える必要があると思っています。

子ども達の安心をつくるために大切にしていることは、子ども達を知り、寄り添うこと、そして笑顔です！

目指せ！日本一の図書室！！

今年度、15名の小学6年生の子ども達が「子ども司書」養成講座に参加しました。

どの子どもも「本の楽しさをもっとたくさんの人に知ってほしい。」という思いをもって、市民図書館や自校において実地研修を行うなど、この1年間様々な活動をしてきました。



市民図書館での実地研修（貸出・返却、配架などの業務）

今、廿日市市では「目指せ！日本一の図書室！！プロジェクト」に取り組んでいます。子ども司書をはじめとして、子ども達がこのプロジェクトに主体的に関わり、「私達の学校の図書室は日本一！」と自慢できるものにしていきたいですね。



POP (子ども司書作成)

特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

2月も後半となり、来年度への引継ぎの準備が始まる頃かと思えます。

令和3年度は、市内小学校に通う全ての児童が通級指導教室を利用できる環境が整いましたが、中学校への拡充はこれからというところです。

小学校で通級指導教室を利用している6年生の子ども達も春から中学生。中学校には、どう引き継げばいいのでしょうか？

☆引継ぎの際のポイント☆

- ・本人や保護者と、相談して進める。
- ※引継ぎに際して、誰にどのように伝えるときは、勤務校の管理職や特別支援教育コーディネーターと相談して決める。
- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を確実に引き継ぐ。
- ・小学校で支援して上手くいったことや、上手くいかなかったことを伝える。
- ・小学校と中学校との違い（教科担任制、定期テスト、部活動、思春期特有の人間関係など）を、意識して引き継ぐ。

【初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド（文部科学省）】

小学校から中学校への進学は大きく環境が変わり、不安を感じる子もいるでしょう。確実に引継ぎを行い、小学校での学びを中学校につなげていきましょう。



ICT活用への道

タブレットをこうして活用しています！第5弾

今月号は「佐方小学校」の遠隔授業を紹介します。

第4学年の体育科の表現運動の授業で、埼玉県朝霞市立朝霞第二小学校との遠隔授業が行われました。単元名は「表現してつながろう！まち探検！」です。

まずは、それぞれの学校で先生の動きを真似して、楽しみながら体と心をほぐしていきました。次に、先生から出されたお題から特徴や感じを捉え、即興的に動きを表現しました。その後、本格的にZoomを使って遠隔での交流が始まりました。めあては「お互いの県の有名な場所を身体で表現して紹介しよう」です。宮島など県の名所が印刷されたカードをリーダーが選んで、その題材ならではのふさわしい動きをグループで完成させます。子どもたちは、自分たちが考えた動きを朝霞第二小学校のみんなに伝えようと大きくダイナミックに動いて表現する活動を行いました。朝霞第二小学校からは埼玉県の名所「瀬峡（どろきょう）の瀬舟」が紹介され、それを両校で一緒に表現しました。子どもたちの様子を見ると、不思議と埼玉県にいる朝霞小学校のみんなが近くにいる感覚になりました。

佐方小学校



➤Zoomでつながる

二つの体育館



➤各グループ1台ずつ、電子黒板を使います。



このカメラは、先生を映します。